帝京ロンドン学園
Teikyo School UK
Framewood road,
Wexham,
Buckinghamshire
SL2 4QS

Teikyo School United Kingdom Newsletter

学園通信

2023年度6・7月号
・ホームページ
https://www.teikyofoundation.com/
・連絡先
teikyo.school@teikyoschool.uk

1．学校長挨拶

イギリスは爽やかな夏を迎えていますが、日本では真夏日が続いている頃でしょうか。保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本日、2023 年度第一学期の終業を迎えることができました。今学期中に賜りました、ご理解とご支援に深く感謝申し上げます。生徒たちは、今学期、春の遠足、体育祭、1 年生のブライトン語学研修旅行、2，3 年生のベルリン研修旅行、現地のバーナムグラマースクールの生徒を迎え、帝京八王子中学校の生徒も交えて実施した Japanese Day，ウィンブルドン観戦など、さまざまな経験をしました。またそれぞれのコースでもユニークな学びがありました。サッカーコースでは、コーチングの学習をし、ロンドン日本人学校で実際に教える経験もしました。アートコースでは World of Wedgwood での絵付け体験や、隣接の ISCA(アートスクール）の展示会に参加しイギリスでアートを学んでいる生徒の作品に触れました。水曜コースでは、現地の人に浴衣の着付けをしたり、抹茶を点てたりして、日本文化を紹介しました。日々の授業や生活はもとより、このような様々な行事の中で、生徒たちは、入学式で紹介した、5 つの C で始まることば、Curiosity(好奇心)、Challenge(チャレンジ)、Communication （コミュニケーション）、Collaboration (協働)、Commitment（成し遂げようとする強い気持ち）を実践してくれました。今年度より普通コースはグローバルスタディーズコース（GS)と名称を変え、IB ディプロマプログラムを導入します。GS では、IB 探究の授業も始めました。IB の導入に伴い、他のコースでも探究をベースに実生活に活かせる学びをさらに深めていきたいと思っています。

保護者の皆様方におかれましては、2 学期も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、1 学期の終業のご挨拶とさせていただきます。

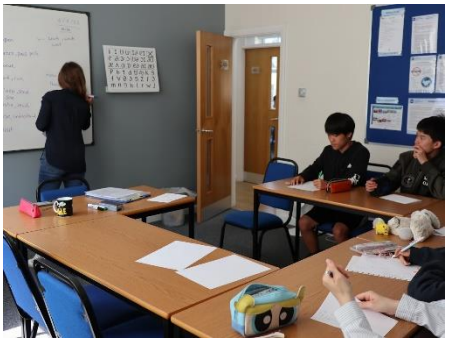
2．研修旅行　高１ブライトン（研修旅行担当より）

１年生は６月４日（日）から９日（金）までイングランド南東部の海辺の街ブライトンに研修旅行に行きました。イギリスでも有数のリゾート地で、サッカー男子日本代表の三苫薫選手がブライトン&ホーヴ・アルビオン FC でプレーしていることでも有名です。ブライトンはサスティナブル、環境を大切にする街としても長きにわたって活動をしている都市です。

良く晴れた日曜日、たくさんの観光客でにぎわったビーチで、生徒たちは地元のボランティア団体のゴミ拾いに参加しました。空き瓶やお菓子の袋など大きなゴミから、たばこの吸い殻のような小さなゴミを集めた後は、海上遊園地やビーチを散策し、そしてドキドキのホームステイに向かいました。

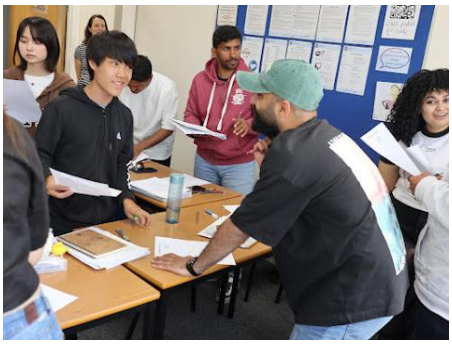
月曜日からいよいよ語学研修が始まりました。ステイ先から自分で地図アプリを使って、道順やバスを調べて全員遅れずに語学学校に到着。ホストファミリーとの初めての夜について共有しつつ、いつもの英語の授業とは違うレッスンも楽しめたようです。語学学校のスタッフによるウォーキングツアーで街の歴史や名所、壁画アートを見学して回り、最後はドーナツ型の動くタワーi360 に乗ってブライトン市内を空から眺めました。

火曜日は語学研修後にブライトン NO.1 といわれるお寿司屋さんに行きました。少々握りすぎなシャリと、魚の乱獲を減らす取り組みで、その日必要な分だけ仕入れるという新鮮な魚を味わいました。その後、様々なアクティビティの中から自分たちで決めたビーチバレーでは、なかなかラリーは続きませんでしたが、みんなで楽しく盛り上がりました。

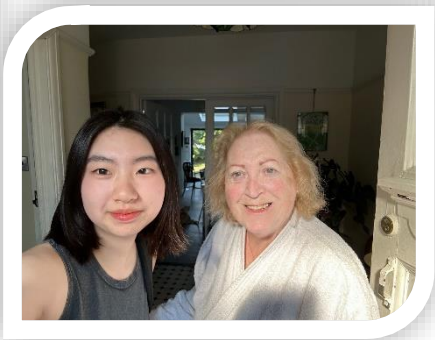


水曜日は語学研修をし、午後からは自由行動でした。ジョージ４世の建てた宮殿や古着屋巡りなど、日本とは違う街並みを散策しました。

木曜日は語学研修後にビーガンピザのお店で、チーズやサラミなしでも、とてもおいしいピザを食べました。その後は１５１年前から続く世界最古の水族館に足を運びました。日本の水族館のようにイルカやアシカのショーはありませんが、怪我をしたウミガメのリハビリや、ペットとして飼われていたにもかかわらず人間の都合で捨てられた魚の保護もしています。海洋プラスチック問題についてのワークショップを受け、日曜日に行ったビーチクリーンがどのように海の生き物に影響するかを学ぶことができました。



金曜日は語学研修のまとめとして、他のクラスとの交流や修了証明書授与がありました。６日間お世話になったホストファミリーに別れを告げ、最後にはイングランドにひとつしかないアースシップを見学しました。アースシップはタイヤや空き瓶などの廃材を使って建て、太陽光発電や雨水などの力を利用する地球に負担の少ない家です。様々な個性のある人々や地球環境に優しいブライトンに癒された旅でした。



研修旅行　高２、３ベルリン（研修旅行担当より）

　ベルリン研修旅行の学習テーマは、「ホロコースト」と「東西冷戦」です。週２時間（サッカー・アート・理系は週１時間）あるヨーロピアンスタディーズと、世界史の授業において事前学習を行い、そして研修のしおりも各生徒が訪問場所を調べて作成しました。

　研修旅行中は、現地ガイドさんの説明を英語で聞きました。生徒たちは真剣に耳を傾け、時に質問をして、英語で歴史を学習する良い機会になりました。特にベルリンの壁崩壊直前に東ベルリンで生まれたというガイドさんの説明は、様々な問題を生徒たちに問いかけ、考えさせられる内容でした。他にも、毎日、生徒それぞれが研修場所で感じたことを写真と一緒に Padlet に載せ、お互いが感じたことをシェアする取り組みをしました。書き込みは英語でも日本語でも良かったのですが、多くの生徒が英語で書いてくれました。

　以下、生徒たちが Padlet に書いた、見学場所についての感想を紹介します。

　ナチス政権下で殺されたユダヤ人のために作られた「ホロコースト記念碑」を訪れ、規則正しく並べられた石碑の間を歩いて回りました。

“Today I went to the Holocaust Memorial. It was the same colour. But the height was different. I think it represents that each person is unique and not all of us are the same. It I said that this memorial was erected to remember the many Jews who died.”

　ベルリン郊外（旧東ドイツ内）にある「ザクセンハウゼン強制収容所」を見学しました。

” I learned that the Sachsenhausen concentration camp was triangular because it was easier to monitor the whole area. Furthermore, from the interior of the building and the records of individual prisoners, I learned how inhumane the Nazi Party and SS were, and how they were thugs who used psychology and dictatorship to create an environment from which one could never escape.”

　1945 年、イギリス、アメリカ、ソビエト連邦の首脳が集まり、ドイツ降伏後かつ日本の戦後処理を決定するためのポツダム会談が開かれた場所「ツェツィーリエンホフ宮殿」を訪れました。アメリカ大統領トルーマンはアメリカ本国から原子爆弾実験の成功の連絡を受け取ったことを生徒たちは学びました。

“The place where the Potsdam Conference was held. It was a good experience for me to visit here because I’ve only seen it in textbook, so I was impressed and excited.”

ベルリン中心部にあるウンター・デル・リンデン通りを観光している際に、戦争に反対する展示を見つけました。
“When I saw this recently, I wondered why there was such a thing, but it turns out that Germany considers the Ukrainian and Russian issues important because of the failure of the old wars. It was also a very valuable experience for me because I did not know that many people in Germany had lined up to demonstrate.”

東西ドイツに分かれ、さらに東ドイツに囲まれるように西ベルリンの周囲に壁が作られた際、自由と未来を求めて西に渡ろうとした人たちがいたことも学びました。
「チェックポイントチャーリーを見て、本当に何十年前はここに厳重な警備が敷かれていたと思うと正直ぞっとします。でもこれがドイツの歴史を語る上で大事な部分だと思います。」

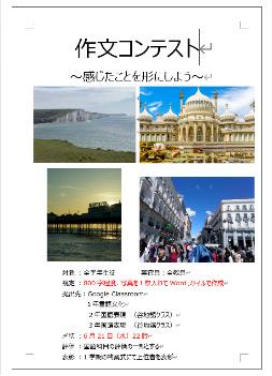
第二次大戦中の防空壕と、冷戦時代の核戦争に備えたシェルターを見学しました。冷戦時のシェルターとして使われた際には、逃げ込める人に優先順位はなかったそうです。それは世界大戦時の教訓である人に優劣をつけないというところから来ているという説明に対し、生徒たちはこれまで学習してきた内容と合わせて納得しているようでした。
「実際に数十年前に使われていたシェルターに入れて貴重な経験ができました。冷戦時にベルリンには核爆弾が落とされることがないと予想できたため、防空壕ではなくシェルターになったということを知りました。空気を良くするために２分おきに交代して重いハンドルを回すのは大変そうだと思いました。ガイドの人の英語がとても聞きやすく、内容が理解しやすくて嬉しかったです。」

他にも多くのものを見て、考え、経験できた５日間でした。
「リッタースポーツは自分でカスタマイズしたチョコレートを作れて楽しめる場所でした。チョコレートの食べすぎにはお気をつけなさって、皆様。」

“I surprised this art because it’s so unique. A lot of original; characters exist there, and it looked like alive. I felt art is amazing.”

“Today I bought some physics material from German bookshop. It’s a mini book for the German university entrance exam called ABI, which I like A- level in the UK. Of course, everything is written in German, but I found it a bit interesting that some of the formulas and so on are the same all over the world, so there are a few parts I can understand. I also thought it would be interesting to compare the way of learning and the subtle differences in formulas with Japan. I would like to study mathematics and physics in English in the future, so I think this opportunity was very valuable for me.
My friend bought the history version of this. He found it very interesting as well, as history is probably learned in different countries. I think it is a very valuable and good opportunity to be able to see the world from another country’s point of view, not just the way we see the world in Japan. I would make use of this in my future studies.”

３．研修旅行作文コンテスト（国語科より）



６月に行われた研修旅行を題材にした、作文コンテストを実施しました。旅行の思い出の一コマ、心に刻み込まれて忘れられないこと、忘れてはいけないこと、それらを生徒たちは文章にしました。写真を撮って思い出を残すという方法もありますが、心に浮かんだ感情を言語化することを通して、より明瞭な思い出として残すと同時に、言語運用能力を高めていってほしいと思います。

１年　最優秀賞

「カラスの行水」

ブライトンに出発する前日、私は期待と同時に不安で胸がいっぱいでその日はよく眠れなかった。

早朝、木々の向こうに隠れていた太陽が顔を出し「もう朝か」とベッドから起き上がり鏡の前に腰を掛けた。鏡に映る私の顔は少し不安気な顔をしていた。私はこれまでホームステイの経験がなく上手くホストファミリーとコミュニケーションをとることができるか心配で仕方なかったのだ。「ホストマザーが超せっかちばあさんだったらどうしよう…」「一人で日本語の通じない人のお家に泊まるなんて私生きていけるの…？」そんなことを考えているうちにバスの出発の時間が来た。 クラスメイトといるバスの中、いつもなら耳が痛いほどうるさいのに今日はやけに静かだった。

数時間後、とうとうホストファミリーの家についてしまった。私はタクシードライバーの 背中に隠れたままただインターホンが押されるのを見ていた。そして、玄関のドアが開き、とても優しそうなおばさんが出てきた。おばさんは家の中を案内して、この家でのルールなど、私の英語力でもわかるような話し方で一つ一つ教えてくれた。

その時、私は何を悩んでいたのだろうか。そう思った。

ここまで経験がない故にホームステイに対するたくさんの偏見があり、それが私の不安を増長させていた。しかしながら、そのほとんどは私の思い込みであって実際のところは心配に及ぶほどのことではなかったのである。

こうして、到着後数十分で私の不安は解消され、明日以降へ期待を胸にベッドにつく、はずだった。

明かりを消す数十分前、事は起きた。

いつも通りゆっくりシャワーを浴びながら音楽を聞いていると「ドンドンドン！」シャワールームの戸を叩かれた。急いでシャワーを終わらせホストマザーの元へ向かった。彼女は少し怒った様子でこちらに向かってくる。（どうしよう怒らせちゃった…でもなんで？音楽うるさ過ぎた？）すると、ホストマザーは超早口で「あなたはシャワーを使う時間が長すぎ るわ！水は有限なの、一日に何リットルも無駄遣いできるほど私の貯金はない。そしてこの家は一つの蛇口からしか水が出ないの、あなたがシャワーを使っている間私はガーデニングできない。私は 3 分で出て来られるわ！水は最小限の量を使って。」

（怒らせてしまった…）

私はひどく反省した。

翌日から、私はタイマーをセットしてシャワーを浴びることにした。時間制限は 8 分、私は、すべてのエネルギーを集中させ、シャワーを浴びた。結果はジャスト 8 分。一回目にしてはなかなかな記録だ。それから毎日試行錯誤し最終日、結果は 3 分 50 秒だった。私はすこぶる嬉しかった。 こうして私は音速早風呂術を手に入れたのであった。

ここではほんの一部の内容しか話せていないが悲喜交々な 1 週間で、充実した毎日だった。短期間で普通に生活する毎日より遥かに多くの経験ができるホームステイに、沢山の魅 力を感じ、また挑戦したいと感じた。

２年　最優秀賞

「終わりのない日々」

立ち並ぶ灰色の石碑。雲一つない青空。無数の数の石碑が私の前に立ちはだかる。心地よい程度に肌寒いが、太陽の強い日差しは私たちを照らし続ける。ここはホロコーストによって犠牲になったユダヤ人のための記念碑がある場所である。同じ高さの記念碑はなく、まるで犠牲になったユダヤ人１人１人を表しているかのようだ。１つ１つの石碑の間を進むにつれて、石碑の高さが自分の身長より高くなり、周りの景色が見えない。私は一人取り残された気分になった。辺りは静かで、360 度どこを見ても周りには同じ景色があり、収容されたユダヤ人の終わりのない日々を想像することができる。

第二次世界大戦時、ユダヤ人はナチ党により拘束され強制収容所に送られた。収容所では強制労働を強いられ、人間としての尊厳を奪われる、絶望の日々をユダヤ人たちは過ごした。そこは、逃げたくても逃げられない、正に地獄だ。銃殺、人体実験、ガス室での殺害など、次第に「ユダヤ人狩り」はエスカレートしていったが、誰一人この現実を止めることができなかった。犠牲となったユダヤ人たちはどんな思いで死を迎えたのだろうか。

この石碑には、多くの人の願いや希望、憎しみ、怒り、寂しさなど様々な思いが込められて造られている。そんな思いとは裏腹に、過去にはこの石碑の上でジャンプして飛び回り、遊んでいた若者がいたそうだ。その若者たちは、歴史を知らないのだろうか。私の心の奥はベルトで締め付けられたように苦しくなった。

歴史を変えることは不可能だ。だが、私たちにできることはある。過去の過ちを知り、歴史を理解することで未来の子供たちに平和をつなげていくことだ。無知というものほど怖いものはない。歴史を知らないということはまた、同じ過ちを犯す可能性があるということだ。2 度と戦争を起こしてはならない。2 度と人の命を軽んじてはならない。一人一人の命は同じ価値であり、大切に扱わなければならない。雲一つない青空の下、争いのない平和な世界になるように、私は祈りを込める。

３年　最優秀賞

「人権が失われていた国」

私が強制収容所の門を潜り抜けた時、言葉には表すことができないほどの重い何かが肩にのしかかってきた。それは、悲惨さを伝えてくる念のようなものであり、絶対に逃げることのできないと感じた恐怖のようなものでもあった。ザクセンハウゼン強制収容所。そこは、アウシュビッツのような絶滅収容所ではないが、ガス室や人体実験が行われていた「ステーション Z」と呼ばれる施設もあり、約二万人が亡くなったとされている。

ここで一番の衝撃を受けたのは、SS（ナチスの親衛隊）がとっていた心理学だ。ガイドを通じて学べたことがいくつかある。一つ目は、SS 側は、ここに収容された何十万人もの人が一気に反乱を仕掛けてきた場合に、いくら銃器を使っても到底太刀打ちができない。そこで囚人たちをいくつかの班に分け、その間で対立をさせることによって反乱を未然に防いだことだ。二つ目は、収容所の外に SS のオフィスや彼らの家族の住宅街を配置し、仮に囚人が脱出できたとしても、その先で生き延びることができない環境を作り上げたことである。三つ目は、建物内のサインや注意書きを全てドイツ語で書くことで、言語の違うユダヤ人らを殺害する口実にしたと同時に、「言葉が分からない」からこそ一人で逃げ出すことができない心理状態にさせたことである。一人じゃ逃げ出せない。逃げた先は敵だらけで誰も助けてはくれない。待っているのは死のみ。何百、何千万人の人権がはく奪されることは間違いなく悲惨なことだが、ここまで徹底して絶対に逃げることができない心理状態に陥れたナチスは、もはや非の打ちどころのない完璧な悪党と言っていいほどだと思った。私が門を潜り抜けた時に感じた血の気の引くような重みは、そのすべてを肌で感じ取れたからなのかもしれない。だからこそ、二度と繰り替えさない為に学ぶ歴史の価値がそこにあると改めて思った。

このように、実際の跡地を各地で回り、第二次大戦が原因となる冷戦時代のことも触れることができたため、「人が生きるための権利」について深く考え、実物に触れて体験し、多くの学びを得ることができた。そんなベルリン研修旅行であった。

４．研修旅行フォトコンテスト （広報部より）

１年生のブライトンホームステイ、２・３年生のベルリン研修旅行に合わせて、フォトコンテストを実施しました。テーマの「水」は広報委員会の生徒が考え、各クラスで呼びかけをしました。たくさんの素晴らしい作品の中から厳選な審査の結果４つの作品が選ばれました。因みに広報委員会は他にも毎週のインスタグラムの更新を主として活動を行っています。

５．英語授業：養蜂体験（英語科より）

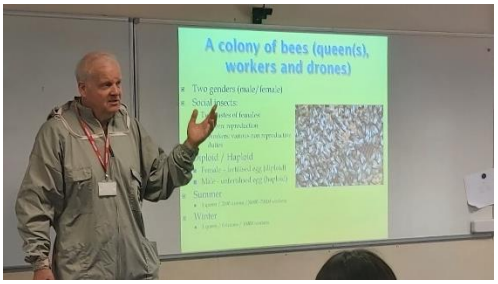
KO2 Meet the bees

As part of their English Conversation class on nature and the environment, KO2 students were able to visit the beehives at Teikyo School and listen to a presentation by the beekeeper.

The beekeeper spoke about how important bees are to the environment. The students also learned about the different jobs bees do in the hive and how much effort they put into producing honey.

The students were apprehensive at first about visiting the hives, but after putting on the suits and actually being able to see inside each colony, they soon lost their fear. Some students even practiced capturing individual bees and marking them.

Finally, the beekeepers collected fresh honey and the students were able to have a taste. The overwhelming response was “delicious”! Hopefully, the activity will help students to do more to protect the world around them and give them a little more confidence to conquer their fears.



６．ウィンブルドン観戦

期末考査翌日の早朝に学園を出発し、テニス世界４大大会の１つである Wimbledon 選手権を観戦してきました。前日からテントを張って並ぶ人もいるように、長時間並ぶことも Wimbledon テニスの醍醐味だと言われています。会場に入るとすぐに雨に見舞われ”Rainbledon”になってしまいましたが、雨が上がり試合が再開され、齋藤咲良選手（16 歳）の試合を観戦することができました。見事勝利を収めた齋藤選手と写真を撮ったり、BBC の試合中継に映ったりして、生徒にとっては良い思い出になるとともに、同世代の日本人の活躍が良い刺激になったようです。

７．Japanese Day（水曜コース担当より）

６月２７日（火）に、Burnham Grammar School の生徒６０人が学園を訪れました。水曜コースでは、この日のためにどの日本文化をどのように伝えようか計画を練って準備し、当日は大成功を収めました。

餅つき・手裏剣ゲーム

２つの紹介を３人のメンバーが中心となって行いました。お餅の準備に時間がかかるハプニングにも柔軟に対応した生徒たちは、用具や文化の紹介、トッピングの説明を英語で行い、現地の生徒にも「よいしょ！」のかけ声で餅をついてもらいました。お餅が苦手な生徒がいるかと予想していましたが、予想以上に好評でおかわりする生徒もいました。

手裏剣では、グループに分かれて、２分以内に的に当てた合計をグループで競い合い、１位のグループには折り紙の景品を渡しました。忍者の気持ちになれたかは分かりませんが、遊んで喜ぶ現地の生徒たちの表情を見た本校の生徒たちも嬉しさがにじみ出ていました。

茶道体験

昨年同じ体験を行った生徒を中心に、計画し実施しました。お茶菓子は、どら焼きと羊羹の二種類を用意し、原材料を説明し、選択してもらうなどの工夫も凝らしていました。緑茶を飲んだことがある現地校の生徒は多かったのですが、抹茶を飲むのは皆初めてらしく、みんなの反応を見るのが非常に興味深かったです。この日は日本から来ていた帝京八王子中学の茶道部の生徒も加わり、本校の生徒と一緒に英語でのコミュニケーションの難しさも実感し、英会話力と話題を自分で探して発話する能力を身につける必要性を感じ取った貴重な一日でした。

浴衣の着付

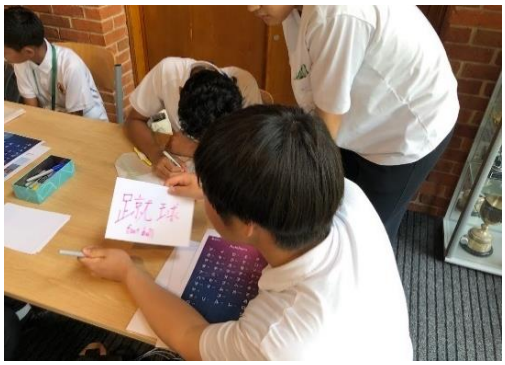
最初に学園生が着物や浴衣、夏祭りなどについてパワーポイントを用いて英語で紹介した後、各担当生徒が現地の生徒に浴衣の着付けを手伝いました。その後中庭に出て記念撮影会となりました。新緑を背景に色とりどりの浴衣がとても映えていました。現地の生徒からは、「浴衣がカラフルで綺麗。民族衣装を体験できて嬉しい」、学園の生徒からは、「英語で日本文化を紹介するいい機会となった。喜んでもらえてよかった」などの声が聞かれました。

日本遊び（気配斬り）

日本人 YouTuber が考案したものを学園体育館で実践しました。過去の事例がないこともあって、ギリギリまで企画・準備に奔走することになりましたが、当日は、献身的なリーダーを中心に、静寂と笑いを見事に両立させることができました。日本文化によりよく触れてもらうために、回を重ねるたびにメンバーで協議し、ルールや説明を微調整しながらアクティビティの質を高めていて、とてもステキな活動になりました。

凧あげ（日本語教授）

凧あげは世界で行われている遊びですが、そこに漢字やひらがなを書き込みオリジナルの凧を作って、学園の広いグラウンドであげたら、日本語も教えられて楽しんでもらえそう！という気持ちから始まりました。この凧は、ゴミ袋と紙ストローとタコ糸を使って、当日朝までに手作りしたものです。現地の生徒たちに好きな食べ物や動物、スポーツなどたくさんの質問をし、それらの日本語を凧の空白がなくなるくらい沢山、一緒に書きました。途中、話が続かなくなったり、知らない言葉が出てきたりしても、チームのメンバーと助け合いながらあきらめずに、幸運を運ぶ風も吹いて青空に多くの凧があがりました。



８．生徒会役員選挙（生徒会より）

６月２６日(月)に、生徒会役員選挙が実施されました。新たな役員に選ばれた皆さんは、生徒の代表として今後頑張ってもらいたいと思います。今まで生徒会を引っ張ってくれた現生徒会執行部の皆さん、
お疲れ様でした。

９．Teikyo IBDP Letter 2（IBDP Coordinator より）

※「日本のＩＢ生（ＤＰ）がＩＢ教育によってどれくらいの力が伸びたか」について、日本の非ＩＢ生との比較を研究したものを、以下のリンクから見る事ができます。ご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=FY5oNLsRh48

10_IB 教育実践・研究成果共有会　**IB** 教育研究成果発表（筑波大学・東京学芸大学）「第 **8** 回　国際バカロレア推進シンポジウム」

1: IB ディプロマプログラム（ＩＢＤＰ）

国際バカロレアには４つのプログラム（以下の４つ）があり、本学園ではＤＰを行います。ＤＰとは、16 歳～19 歳の生徒を対象とし、2 年間の課程で所定のカリキュラムを履修し、高校３年生 11 月（本学園の場合）に最終試験を受検し所定の成績を収めると、国際的に認められる国際バカロレア資格（フルディプロマとも言う）を取得できるプログラムです。

PYP 3~12 才　MYP 11~16 才　DP 16~19 才　CP 16~19 才

2 :ＩＢＤＰのカリキュラム

本学園の IB ディプロマプログラムを選択した生徒は、６つの教科（IB では Group といいます）と、必修要件となっている「コア」科目を同時並行で履修します。

教科名（Group)	履修する科目	レベル
言語と文学	日本語 A：言語と文学	上級(HL)
言語の習得	English B	上級(HL)
個人と社会	歴史	上級(HL)
理科	生物	標準 (SL)
数学	分析とアプローチ	標準 (SL)
芸術	美術	標準 (SL)

コア科目		
知の理論（ＴＯＫ）	課題論文（ＥＥ）	創造性・活動・奉仕（ＣＡＳ）
知識に関する問いを探究し、生徒が批判的思考を培い、自分自身と他者のものの見方などの違いをより意識できるよう働きかける、ＩＢ特有の学び。最低１００時間の学習が必要となる。ＴＯＫ展示とＴＯＫエッセイが評価される。	大学の卒業論文のようなもの。生徒自身で履修科目に関連した関心のある研究テーマを決め、英語であれば 4,000 語、日本語であれば 8.000 字の論文を書き上げる。	創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、そして無報酬の社会奉仕活動に取り組む。１８ヵ月にわたって自主的かつ継続的に活動を行い、ポートフォリオに活動の記録をまとめて、７つの学びの成果をもって活動が完了する。ＴＯＫ・ＥＥとは違い点数化はされないが、ＣＡＳの充足なしにはディプロマは取得できない。

例）

知の理論；ＴＯＫエッセイの例

・主張を証明するには、事実のみで十分なのだろうか。2 つの「知識の領域」に言及しながら論じなさい。（『知の理論 所定課題１１月試験セッション』２０２３より）

課題論文（EE）の例

・タイトル：都市全域にわたる無線ネットワーキングの実現可能性
　研究課題：都市全域を対象とする場合に、無線ネットワークはどの程度、有線ネットワークの現実的な代替となるか。（『課題論文　手引き』２０２２より）

CAS の実践例

・「奉仕」の継続的な CAS 活動として、介護施設を何回も訪れる計画を立てる。
　（『創造性・活動・奉仕（CAS）手引き』２０２０より）

3 :Next Issue

　学修の先の一つには、大学進学があると思います。ＤＰを選んだ生徒たちは主にその成績で大学進学をめざすことになります。では、その成績はどのようにつけられるのか。次回お話しています。
※IB ディプロマプラグラムを考えている生徒は、この夏は英語の総合的な力を伸ばしてください！

~2023/6/30 校内研修~

　週１回程度、教員主催の校内研修を行っています。
　IB の授業は「逆向き設計」をベースに授業が組み立てられており、これは日本のカリキュラムでも必要とされる考え方です。今回は各教科で集まり「逆向き設計」に基づき、どのような授業設計ができるか、IB 教科の担当に関係なく全員で議論し、レッスンプランを作成する研修を行いました。
　生徒の学びを促進させるために、「本質的な問い（essential questions)」はカリキュラム設計において、重要な位置を占めています。次回の研修では、「本質的な問い」とは何か、今回作成したレッスンプランからどのような質問を作ることができるかを更に深掘りをしていきます。
　このように、IB の学校コミュニティーでは、生徒だけではなく教師も、協働の姿勢、そして IB の学習像（学園通信 5 月号記載）を体現した学習文化をもつことが求められます。

１０．各コースより

・サッカーコース ⚽

今学期はヨーロッパサッカーがオフシーズンに入ったことから、フィットネスや体づくりの時間が多かったです。日々トレーニングすることで以前よりも重い重量を持ち上げられるようになったり、回数をより多くできるようになったりと成長が見られました。またプレミアリーグ観戦では、今シーズン大活躍だった三苫選手のプレーやリーグ優勝を果たしたマンチェスターシティのプレーを間近で観ることができ、貴重な経験となりました。

その他にはコーチングプログラムも始まり、オンラインにて FA のコーチングライセンスのコースを受講した上で、ロンドン日本人学校の生徒（小中学生）に向けて４回の指導実践を行いました。事前にトピックやメニューを考えて指導を行いましたが、初めてのサッカー指導ということで、様々な難しさを感じたようですが、緊張しながらもコーチングの楽しさも味わえたようです。指導者としての知識を増やしたり目を養ったりすることが、自身のプレーにも活かされることを期待しています。

夏休みでは普段会えない家族や友人などとの時間を過ごし存分にリフレッシュして、２学期に元気な姿で会えることを楽しみにしています。

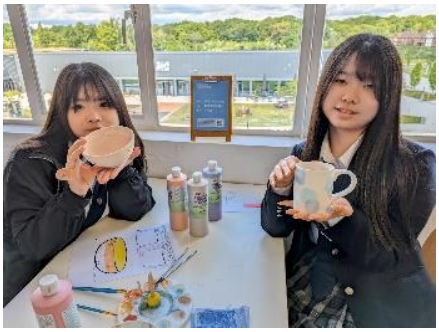
最後になりますが、今学期もサッカーコースの活動にご理解ご協力いただき、ありがとうございました。

・アートコース 🎨

１年生の１学期の活動は、鉛筆デッサンから始まり、ISCA の Art＆Design の授業では、絵の具を使ってセザンヌやマティス、モネ、ドランなど印象派や表現主義の学習を行いました。Fashion ＆Textile の授業では、編み物や刺繍、絞り染めを学びました。初めて英語で学ぶ美術の授業や、英語で出される課題、スケッチブック制作、ディスカッションなど、全てが新鮮でもあり、大きな挑戦だったと思います。

２年生の１学期の活動は、木炭デッサンから始まり、美術史、オリジナルのアフタヌーンティー制作、油絵を行いました。ISCA の授業では IGCSE に向けて、テーマに沿ったコースワークに取り組みました。IGCSE の課題からは、自分と対峙しながら、普段は当たり前と思って見ていたことを再度見つめ直し、考えた事や感じた事を再構成して表現する時間が多かったように見受けられます。

学期に 1 回の outing では、World of Wedgwood に行き、絵付け体験を行いました。美しく装飾された食器をゆっくり鑑賞する事で、自分の好みや、繊細な美しさを改めて感じる事ができたようです。また全学年で隣接する ISCA の展示会にも出席したことで、海外の芸術高校が創る作品のクオリティやインパクトに刺激を受ける生徒もいました。感動や驚きや些細な発見を大切に、知識と経験を増やしながら、自分とは何か、美術とは何かについて深く掘り下げていってほしいと思います。



１１．生徒会校歌プロジェクト（生徒会より）

生徒会を中心に考えた歌詞を録音するために、代表生徒 2 名が音楽家の山本さんのスタジオに行きました。最初は緊張していて歌詞がメロディーに追いつかないということが続いて、何度も撮り直しました。しかし、山本さんが緊張をほぐそうと場を和ませる言葉をかけてくださったおかげで、次第に緊張もほぐれ、歌うことができました。初めての録音で戸惑いもありましたが、とても楽しく録音を終え、最後に完成版を聴いたときには、「私たちの声が本当に帝京ロンドン学園の校歌になるんだ」と実感しました。それは私たちにとってとても貴重な体験であり、また忘れられない思い出となりました。来学期には、生徒会全員で録音を行う予定です。

１２．学園日本人シェフ平田さん退職（生徒会より）

１２年の長きに渡り、美味しい日本食で帝京生の胃袋と心を満たしてくれた日本人シェフ平田さんが、6 月末をもって学園を退職されました。6 月 30 日（金）Tea Time に生徒・職員が食堂に集まり、平田シェフの新しい門出を祝いました。その際、生徒会からは花束の贈呈があり、生徒たちは平田さんへ感謝の気持ちを伝えていました。

１３．寮便り

早いもので、1 学期が終わりました。先月は、研修旅行や Japanese Day など学校行事があるなか、寮企画として、天文台でよく知られ、世界遺産にも登録されている Greenwich へ行ってきました。国際的な本初子午線として長く用いられていた地を訪れ、寮生たちにとって、この英国での 3 年間におよぶさまざまな経験が、グローバルに活躍していく彼・彼女らの人生の起点となっていくことを、改めて感じてくれたことを願っています。

また、隣接する ISCA の学生とのスポーツ交流会も実現しました。集合した最初は、双方の学生とも非常にナーバスな印象でしたが、会終了時には次回の日程を私たちに提示するほど、楽しいひと時になったようです。これまで場を共有しながらも関わる場面があまりありませんでしたが、今回を契機に、学園敷地内でのコミュニティーの場も広げてもらえたら何よりです。

１４．保健室より

6 月 16 日(金)に、学園近くの歯科医院より今年も Dr Shar が来校して下さり、生徒の歯科検診が行われました。生徒自身が気になっている歯の箇所や歯磨きの状況を確認しながら丁寧に診察してくださり、特に 3 年生とは、卒業後の進路について話が盛り上がることもありました。夏休み中に受診が必要な生徒は、別途お知らせいたします。

6 月 19 日(月)には、地域の総合病院から忙しい合間を縫って、心臓外科医の Dr Singh が来校して下さり、生徒への CPR 講習会が行われました。「CPR の大切さを知り、実践できる若い人たちを一人でも多く育てたい」という Dr Singh の思いから始まった、地域病院の Health Charity の一環として、学園も実践の候補校に選んでいただきました。映像を見たり、実践をしたり、より深く CPR について学ぶことのできた生徒たちからは、講習が終わった後も、Dr Singh へ質問に来る生徒たちが何人も見られ、医療の仕事に興味を持つ生徒たちが多いことを改めて感じました。

長い夏休みが始まりますが、1 学期の疲れを癒しながら、健康に気を付けて元気に楽しい休暇を過ごしてください。保護者の方には保健カードをお送りします。夏休み中に受診が必要な生徒もいますので、2 学期から万全の状態で新学期が始められるよう、ご協力をお願いいたします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　**今月の一枚**　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

春から夏へ。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

帝京ロンドン学園の Instagram は**コチラ！▶▶▶**

編集後記

1 学期終業式をもって、今学期も無事終了しました。3 か月前に学園生活をスタートさせたばかりの 1 年生も、上級生とも打ち解けて、すっかり「帝京生」の顔になっています。長い夏休み、生徒の皆さんには有意義な日々を過ごしてほしいと思います。（本間）